

夢想兵衛胡蝶物語後編

壹

再編胡蝶物語序



復讐の稗史を成畫として、あつた九年、作者の

の、終つた儘、終つた後、ついで、里按、終つた、

所為と云ふ、なから、生活の二字、は、羈、ま、

より、あ、よ、と、よ、ひ、る、男、子、一、足、は、ま、と、

五尺の蛇と安んじ、目、に、観、み、む、ひ、つ、無、好、ら、

里、つ、へ、え、う、け、た、ら、幸、な、ら、ば、さ、れ、バ、

ま、ら、る、書、買、も、今、は、裏、ら、ぬ、ハ、書、團、と、長、



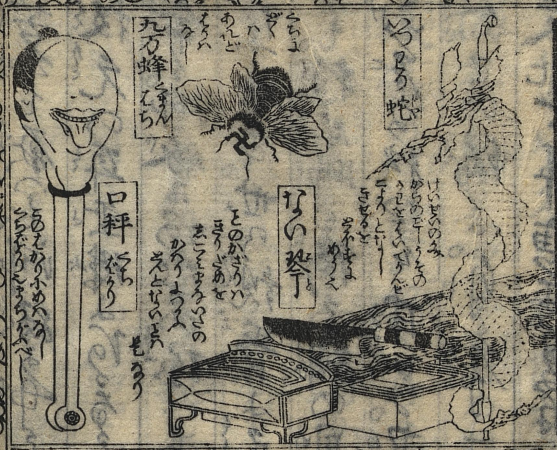
るの智囊を絞りに出で所を去年の暮ら
と氣成りえど胡蝶物語を著しつる落が来ら
板元の白まの喜ゆれて今茲五月のちがらんら
後編の傳信の抄耳入ふりあの一日晚のちまけ
日和花曇より五月雨の降はぬを武休墨の曲形
あもこらばけ後へ盆前もくや遠くは生ぬ草
本と愛を勉て葉成起て再編四冊と綴りす前後
九巻の冊子とあり信や河豚と嗜むりの美味を
賞し七中へ成るる又稗説と綴りのの當るとありて

苦を厭て河豚も中へ味あるを於際のおろし
板元の耳垂珠よりある下。去るは此書紙の
命河豚は河豚の味ありても実を毒も葉も
たふらむ世の親晋よ居膳と板屋がねる花は重
も板束師の鑄不調の月由室か為の彩板三味
けの終つて井口の岸雨の狭口を左のよ受て
るの編よの序すす

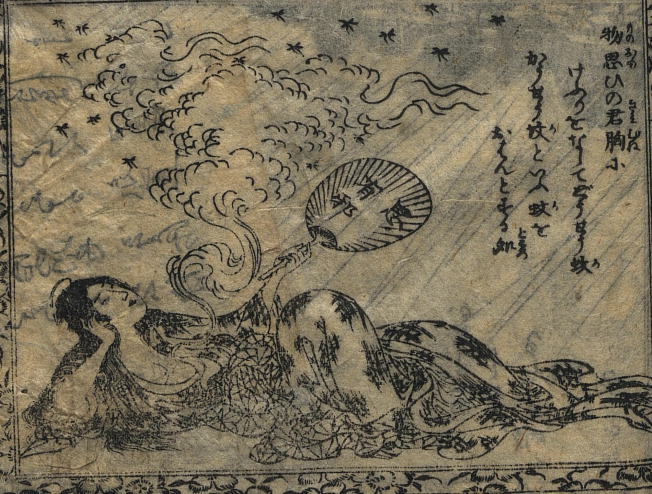
文化七年庚子夏月 曲亭馬琴



食言郷産物之圖



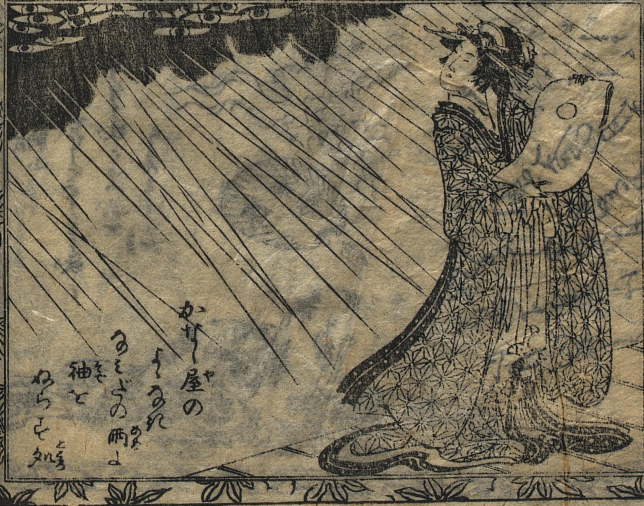
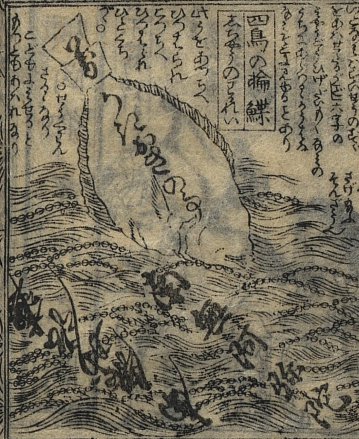
煩悩郷産物之圖



哀傷郷産物之圖



血の南彌陀
後世の心流



かき屋の
ふりか
ふりか
袖と
ぬらと

歡樂郷土産圖



大かき人
ふりか
ふりか



人のたのしみ
ふりか



夢想兵衛 此行編知

再編胡蝶物語總目錄

第一 食言郷

夢想兵衛 鹿月希二郎 談論

第二 頃惱郷

耳目の愁心乃憂小勝

第三 哀傷郷

夢想兵衛 湖の西やどり

第四 歡樂郷

人間は歡樂無数 量り

毎巻小批評あり 目錄畢

夢想兵衛胡蝶物語後編卷之一

京都

曲亭馬琴戲編

食言郷

食言とは何ぞや今日こそとていども明日輒長易せん。食言のりく
己不吐く復たれと吞かばど。びり成湯の誓文は朕食言せとての夫食言
との偽あり。食言則欺詐盡て小雅て小書をえくもまれば犢鼻を
引締て萬事は虚とせざる人て渠奴の食ぬ奴とい人て我をも食ふか
為そののりくも取べきあり。道家の虚説は不老不死浮屠の虚説は
天堂地獄莊子の寓言孫子の武略。多き世の為人の為と合てえれば
偽の文字は實語のいれども。浅くさがるは凡夫の欺詐。尻由結ぬ芋環の
いと可愛の女郎の万八客やと欺詐を尽ねと。俳諧者流の滑稽言可

か供と称ひしは拙者かよりの誘引するを立流は約束を成して本日
ふるれ音ゆせど行経て逢へばと彼日何や故障ごうて火急の
要夏より份も近年の凡不約束と萬る欺詐を問とめられぬ
奸智よ引へて人を疑ふと尋問が性となるのるれバ子と教するも
代問あてこわりのあるゆひの金剛穿てらうく走り忽ち蹴り雅児
がその位より泣出せぬ母親遠て走り出坊へ強いの金と拾へて泣く
抱き起しとまごく金紙拾ひぬせぬよ金と拾うこと親の欺詐とまりつ
承知も泣止む三才児の魂百まで今と心白も痛と恐るゆも
の教よる春平の世に夜戸と漬む途は送金紙拾つと竟舜以来乃
通り文句貪りて心清くはのそ送金と拾ふ金と拾へたさる厄災送り
の返とせむはるくの烟はのり拾へて人も告まらせむともの懐抱へ納

まは忽ち天の咎を蒙る送しりの念ひでも始終其金か身不著へ
金と拾ふ禍と拾ふ等と恐るる金と拾と教る親の欺詐へめ子と
捨ふ似しとまごくこれらも妻共傷が氣ふはらく容れしも福の神の
教を守りて面アホハひも懲らさる苦いげと進を見捨て又先の町へ
本々見え雅児携り夫婦花山母親を背り附級とてあの子れは
向へ走り抜けらよとこれ禮をせよと囃しはくは雅児見
真実の禮と飲むと幼少荒れと走り去る又又六間退き禮をせよ
と儀なくあけども禮を飲せぬゆもおれを尋てめをめるさる
尻餅撞しを破撞泣そられ母親を引抱胸をひらけてまあ飲めと
矢庭は乳首をゆきむとそれ忽ち泣止しとまものよはて下めぬ乳汁と
飲そといふよ飲せぬ禮と導く親の信といふけも乳汁は毎日飲

韓非子 卷十三 目曾子 之妻之 市其子 隨之而 泣其母 曰女還 顧及為 如叔 適市未 曾子欲 捕刺殺 之妻止 之曰特 與嬰兒 戲耳曾 子曰嬰

子非りのあてめつらむねハ體と欺く多子ハあつと。その偽と利欲
とめて推きりのゆ道すくや大さくある不隨て取の欺詐と見えれ被押れ
親と説已灰何ともあへむ。と下め親を子と能く後ハ子ノ親を能され
あつたむの志むして本錢の財布暗くあり。身上の大黒柱ハ大さく親と
あけられてややく愛のさうるを持所詮取のみよ学が絲ハ勤當と云接
と定め初度ハ長屋ハ世話と被取を招ぐ長口は憎奴といハ偽り儘ハ
可愛い子と捨。浮世の教の救医者ハいよもさうなり扁鵲でも。此と投
る身ノ腐爛ハ切きても断せぬ夫ハ切ても睡ぬりの身ハ。むは曾子
の内義分市へゆ。小其子跡追つて降るハ母只と進と賺といハやん
大ハく箇守つてのよ氣羨美煮て食そくハ曾子これとてて取と捕へる
殺んまらけり。さうの母邊で推止めある戲でさん中。といハ曾子ハ取を掉

見非與 戲也嬰 見非有 知也特 父母而 學者也 聽父母 之教令 子教之 是教子 欺也又 欺子而 不信其 母非以 民教也 逐末氣 也 以之賊

そのあてめつらむねハ體と欺く多子ハあつと。その偽と利欲
とめて推きりのゆ道すくや大さくある不隨て取の欺詐と見えれ被押れ
親と説已灰何ともあへむ。と下め親を子と能く後ハ子ノ親を能され
あつたむの志むして本錢の財布暗くあり。身上の大黒柱ハ大さく親と
あけられてややく愛のさうるを持所詮取のみよ学が絲ハ勤當と云接
と定め初度ハ長屋ハ世話と被取を招ぐ長口は憎奴といハ偽り儘ハ
可愛い子と捨。浮世の教の救医者ハいよもさうなり扁鵲でも。此と投
る身ノ腐爛ハ切きても断せぬ夫ハ切ても睡ぬりの身ハ。むは曾子
の内義分市へゆ。小其子跡追つて降るハ母只と進と賺といハやん
大ハく箇守つてのよ氣羨美煮て食そくハ曾子これとてて取と捕へる
殺んまらけり。さうの母邊で推止めある戲でさん中。といハ曾子ハ取を掉



おきこ
えせうと
ひて
とまの子と
あつる
人

子のころんを
よき金と
ひうつら
いそまき

夢枕忠久備後繪卷一

山梨縣志卷一

以ハ女房由ぬくぬ顔近属母さんか来りてつとら名護屋へ幸便かあ。か
 有松被と五六反纏て遣て程今茲ハ活衣とさやんぬ。とひひなとら
 後ろむより由被らまはせま。おま彼御編は倦なまつとら夏の洗忌よ
 まやせ。といふよりえやうとら世有りやひ空の雲くぬら。可惜袖を裁居て
 女りの小縫る内セハ亭さへら二張羅の單物とまてやられ。口か細屋へ
 入のでも。漆とせる木綿ハ。さか活衣をえて外とら。と出うけさ所か室懐
 何を買まいと好る色ハ腰より着る浅入もゑて。廿四文が乾菓子とさりへ
 袋を捨く鼻紙へらくと押褌と。河水もて立止ま。ハ女房もさりととらと
 りやとまさらせられて。おま浴衣ハ。さかみさうと聖りて甘くする苦アへと
 間ハ莞尔とら笑とさればまつつせらふ半日の間費くと。百反あまら
 の活衣地と。えととく不立氣りの果も果てまるとそれハ菓子とせと

中。酒と出さ中ら又この花まで月とくじ。浴衣ハ買むよぬつとらなみとハ
 ちるま。去々年迄ハ大枚の呉服物と絶と現金は買くと花主も何と買ても買
 ても。何日も花までとぬと。といひつ途で買て来と乾菓子と何と投出せハ
 女房ハまらつと。又て呉服屋で出と菓子ハ版で押とやう安りのあへつ煉
 羊肝も。些ハ合る糸もあつと。このも負まよ。笑涙とわらうらつりの
 鮮魚賣拂いが。目と多と。まよ。素通るも。ざるすいと。索簾と推あけて。

小さるめ。さう。ち。ハ。ハ。ハ。と。さ。視ハ。亭主も。つ。た。見。あ。つ。て。鳴。手。遊。う。り
 目今松魚と二本貫と。習又と。買て。ち。ら。ふ。と。い。は。鮮魚屋。苦。笑。ひ。今。茲
 ハ。河。岸。で。松。魚。と。い。つ。て。ハ。ま。一。本。も。入。う。け。せ。ぬ。と。ん。ご。と。を。あ。り。か。う。と。い。は。せ。も
 のむ。膝。ま。る。り。今。時。の。初。松。魚。を。さ。る。と。え。の。目。よ。う。め。の。と。只。一。口。は。サ。リ
 こ。ひ。る。ま。ん。く。見。え。遠。く。欺。詐。と。ハ。志。也。と。腥。の。あ。つ。く。悲。し。と。ハ。耳。と。潰。し。て

古事類聚後編卷一

走りぬ夫婦の間より足榮と見れば他人と取まらぬ夫と凛らる。大晦日乃
 帳面も勘定合て錢はさねと家より掛飾を人足五人の之間と厭は
 夫婦へ季秋の俵で居ても仕合せの絆天はあふ家の跡と深させ工間
 と飾り身の清徳ともなるは借入敷計せと石機窓の糸も切と御針
 盡て尻尾と見れば残るをその皮財布。志目も口ハ馬まじりそんと
 降とは屑怪は縁の人の子と見ると遠くから離れてお娘さんへ愛敬
 ののこころを黒けとも鼻はあおぬかえは生肉女子の瘡癩はあふと
 可也いりのぬきと手ぬぐいとは流石の老切乳母はさくとも傷痛く湯麩
 ろろばよけども。枳榎あやうやくあけと鼻の穴あふぬぐり。これをめて
 後や令らひむとぬ。ちつとちつとのおお糸でい婦は要人もあつて
 こんちの子の乳母さんと突は肩身がすかると苦く志の顔まじりの

そろり頼人の瘡うらむ。山吹色へ刺印と打口をこぼる檀那どの。頭下よ
 めやうつて。玉面でも大いりの守袋。おとさける。迷子れのやうなりの。か
 沢山のわら。喃娘さん。阿希が人取あけませ。聖とお出と捨せぬと子供ハ
 正直まよけて。とれうら顔とさる。ひふも入取にこそ。あふ。あふ。
 おも独を注ぎてあけよととてお取。ねと耳の落。鞘のあふ。行催佐
 まれても。いけさやあふ。人取のあふ。さる。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。
 去りハ大誓言。此度り。うら。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。
 う。よ。又。お。當。ま。よ。れ。の。だ。く。め。口。状。俄。出。の。え。ま。じ。女。子。と。え。ま。じ。
 輪とかけ。あは。世。持。の。平。一。面。あ。ま。芝。居。お。好。久。あ。う。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 三階でも表でも。うら。の。芝。居。が。幅。う。ら。う。何。時。でも。あ。ふ。あ。ふ。あ。ふ。あ。ふ。
 の。と。あ。や。ご。う。ま。せ。ぬ。高。土。間。で。お。鶴。でも。近。心。知。であ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

ずりして逆いのでござうませう。今えせよきはしよ何ぞとめるまじやせう。
 一知は連て来まはつた。といひつゝ、苞福へまてゆく。あつてはもやぬ蕎麥か。
 一日あつてのまじとて持て来るより、は。そこらにござうたらや亭午二う。
 肚餓くるる腸へ冷む。三人一所よ、小便又閑所備るが、見負ふて。
 胸のまぬるま一管せこの、紙入やと、辨る付と。二重絶子よあはね、も此へ
 ふめる、服帯、三重引残り土産の、條菓子一重と、損さうて、小ま
 目釣も、まてかへるま、酒さの、河豚油ま、ぬく、同情も、供の、老僕よ、面圓も、が、死
 知しまふ日、和癖降らぬらちふと、ま、跡、不夫婦、八月と、合、と、んざりの、が
 志けらんで、おろり、大さ、ふう、と、せ、れ、と、土間、で、足、も、膝、づ、め、三、方、金、で、追、ひ
 つ、ぬ、ち、と、ぶ、と、と、咬、け、ば、女、房、の、苦、く、け、小、女、と、ん、と、目、が、る、の、う、ら、如、才、の
 め、て、え、え、と、め、あ、ば、い、ま、め、の、せ、と、地、綱、と、出、し、る、や、た、り、ら、口、状、

是、人、の、あ、り、が、実、情、と、ど、て、の、團、の、習、俗、を、推、と、り、つ、て、庭、を、掃、き、お、鼻、乃
 塵、と、ご、と、紙、屑、の、勢、と、する、も、ま、小、浮、薄、袂、面、皮、の、後、と、の、と、ん、人、と、答、唯、
 ら、れ、は、満、ち、り、の、あ、ら、後、世、の、が、ん、と、て、数、も、も、入、も、と、ぞ、その、見、識、の、鼻、と、
 野、雪、隠、の、庇、の、と、く、清、合、口、状、あ、ま、あ、ら、ね、ば、小、便、所、の、張、れ、は、似、ま、う、と、れ、と、
 世、才、よ、長、え、ん、が、金、持、る、と、い、は、な、め、う、ら、ら、み、づ、く、い、て、秉、知、さ、を、備、え、返、ま、
 り、の、あ、れ、と、欺、詐、を、被、ふ、個、圓、の、れ、は、互、に、取、一、班、さ、う、初、東、妻、易、と、な、と、する
 ち、を、先、日、の、返、礼、よ、こ、ま、く、の、品、を、進、上、と、ぞ、それ、は、近、う、ら、香、い、と、礼、を、い、せ、て
 そ、の、後、へ、愛、先、ち、も、い、ひ、出、さ、ば、理、々、後、て、催、便、と、れ、が、さ、う、さ、も、と、ぞ、さ、う、さ、ま、
 ら、で、あ、れ、中、う、ま、は、虫、乾、の、希、足、て、進、せ、と、と、思、け、く、換、扱、さ、う、て、も、け、く、ね、と、
 ち、も、懲、ど、口、あ、ら、の、の、ま、方、へ、豆、の、む、く、は、亦、是、一、の、不、思、淺、く、夢、想、共、海、
 える、毎、ま、く、毎、小、傍、痛、く、い、て、の、け、え、ま、の、と、が、れ、と、女、子、と、小、人、の、養、い、

かじ。とちよと偽しと欺きぬ用ひをより外ほどなる。今茲も暮く玉
の。一のとあるあり。有。百。虚。月。爺。二。郎。門。へ。紙。牌。と。出。し。て。明。日。
欺。詐。の。つ。ね。を。め。い。じ。ゆ。浮。薄。執。心。の。輩。ハ。此。來。を。仰。ぐ。所。と。言。ふ。れ。ば。
後。志。兵。衛。八。景。是。果。這。奴。の。團。守。の。口。利。と。言。ふ。い。う。る。欺。詐。と。尽。
中。ん。時。と。め。れ。れ。ゆ。う。の。り。の。て。鏡。伏。て。食。言。御。と。立。地。は。老。實。團。と。
み。の。ご。ん。ど。と。持。病。俄。頃。は。再。度。一。七。の。時。と。言。ふ。行。又。早。且。より。支。度。一。七。
爺。二。爺。三。爺。前。門。々。々。を。え。す。ひ。ま。う。せ。六。門。へ。預。て。入。敷。あり。今。日。化。移。と。
紙。牌。と。生。り。ゆ。う。の。つ。を。も。つ。ふ。と。偽。し。し。果。と。て。ほ。く。と。と。あ。ま。う。る。今。六。爺。二。郎。
ころ。の。紙。牌。々。々。の。精。と。竊。ふ。か。それ。空。居。と。つ。う。と。お。お。え。より。憎。さ。も。憎。し。と。
ひ。ま。う。せ。一。七。背。門。口。より。さ。取。け。ば。生。れ。折。戸。と。寄。り。て。あ。じ。爺。二。郎。の。室。は。
あり。これ。は。け。を。と。て。處。へ。折。戸。と。用。ひ。て。と。と。入。り。今。日。欺。詐。の。つ。れ。初。と。

らけのつ。聽。聞。の。為。推。系。一。七。前。面。六。化。移。と。写。し。て。預。り。の。あ。り。ゆ。
か。じ。某。ハ。日本。國。の。旅。客。小。友。志。兵。衛。と。い。ふ。りの。の。つ。り。や。る。去。年。より。
臺。野。万。八。が。旅。館。と。は。せ。ど。一。句。も。欺。詐。の。つ。れ。り。り。り。か。く。へ。さ。と。り。や。
と。て。々。人。の。集。會。と。こ。ろ。と。止。り。と。し。ゆ。る。ふ。の。つ。と。や。抑。日。か。神。國。の。風。俗。を。
貴。く。賤。き。あ。り。あ。り。て。正。直。実。義。と。言。と。せ。る。彼。三。社。の。神。能。の。と。り。りの。
ふ。も。欺。詐。の。つ。れ。の。守。り。の。あ。り。と。あり。され。ば。管。家。の。め。い。の。あ。り。も。引。換。の。信。
の。道。は。ま。の。ひ。る。べ。祈。と。と。と。も。神。や。守。ら。んと。吹。え。の。ふ。あ。る。ふ。この。團。入。の。
後。志。兵。衛。一。七。偽。尋。く。正。直。実。義。と。い。ふ。の。免。の。毛。で。刺。す。行。も。は。某。奴。の。この。
の。伏。敷。一。七。の。の。あ。り。の。々。の。集。會。と。幸。ひ。は。利。害。を。説。て。後。人。亦。が。解。を。
醒。さ。せ。ん。と。い。ひ。つ。る。ふ。か。く。て。ハ。早。失。ふ。は。似。たり。偽。り。の。の。怖。と。あり。
先生。で。れ。と。怖。く。く。お。お。お。の。あ。り。と。て。居。る。が。ら。門。と。預。り。て。々。の。集。會。と。止。め。

ぬる思ふハ似せ卑怯くと囃つてどくひにまけハ希二郎とてを呼ぶ
 也呵、とうち笑ひおん身いまど彼乃が思ふに、欺詐の放詐、所成を
 ろ、以僕さのみ祇牌を平て今日欺詐のつるを、と写せと人実よりと
 きて来て、えは門を續して化れと写せ、是則欺詐の、初よりと、
 りさの小類せ、今日人を集余るべし、所欺詐と、このふ
 い、所実ると、の、かくてハ忘替つたといふ、
 續く化行と、と、室は隠居が、た、ハ、
 其身を悲るべと、と執篋、
 思の書よ、と、欺詐つた、
 小齊、巧言令色、少きを仁と、
 と、臣妻、
 助けむ、むじ管叔の流言、
 又彼褒姒が巧言、
 巧言浮誕、
 りの、
 濃汁、
 尖、
 忽、
 而、
 冷笑、
 その所、

成王とて、
 幽王とて、
 周室、
 鄭の子産、
 賢人、
 生魚、
 魚、
 仰、
 魚、
 枝人、
 君子、



欺詐の
三人
市
虎
さ
さ

欺る。况て闇君凡人庸信耳と信し虚実をあらば可き好むの流れ
 易く利をかり人の陥せらる。魏の顧恭といふとこありと死魏王は稟を
 賜ふ。今人のつて告まらば。市中は虎ありといふ。これを信とまめりや。王
 ... 笑ひ虎の千里の教ふの極めど。それを信とまめり。信を二人來て
 ... 寡人も些疑ふ。三人來りて告まらば。夜そのとれを信とまめり。言
 ... 夫市は虎ありはと。三人は信とまめり。傍りの言はば
 ... 二度ハ疑ひ。三度ふもふ。その欺詐を遠く信とまめり。ぞり。
 ... 孔子の一番子曾參。鄭の圃よありと。又その圃は曾參と。と。
 ... 石字同ト人あり。このりの人を殺せらる。曾子の母は告て曾參
 ... 人を殺せといへ。母の信とまめり。此方の息子の孝なり。人の入らと殺して

王はる。とびびりつ。布を織ア。えりりもせむ。行ふ。又一人走り來て。
 曾參人と殺すと告ぐ。そのとれ母ハ耳を引く。半ハ疑ひ半ハ信ト。と。さぬ
 ... 又一人走り來て。婆さまあぶる。曾參人と殺すと。其の
 ... 母の賢る。三度の欺詐ハ信と。と。大形ハ吼ると。郡大ハ声ハ吼也。
 ... 人の欺詐ハ。が欺詐と。ハ。と。や。い。ん。つ。く。あ。人。ぞ。と。信。る。は。ハ
 ... その可と知らば。車は輓軌る。と。聖人の宣ひ。將君子ハ詐を遠く。
 ... 又信せざる。王侯億と。人信寡け。と。その言遂ハ不行。と。薄薄の耳を
 ... 搔なら。便佞利口の古と搔き。言ふ。と。一生涯ハ。と。席薦
 ... と。敬て説諭せ。都二郎頭と。う。掉て置。と。蒸鯨鯨の背。と。目乃
 ... 忌ハ。親と。眈と。報ひ。と。あ。め。と。い。ふ。と。連。声。と。ひ。と。め。と。い。ふ。と。ハ。不。孝

の子共と懲さふ為の古俗の欺詐虚偽であるけは世の目されど商人の
 虚誓文も妻子眷属と嫌さふ為に品類へ見かけむら買ふるをやく
 損トすとのりてハ買入かゝるのいもよまよく粘で固め物と得要したと
 偽らも。その是直との相誇れ安らふ又見るむらハいざと志す
 一文と。百損するも買入の好む能事といふとも罪あるふは。よやく
 世間の人情ハ偽りを欺ぶ。偽りてつゞくもの傾城狂ひさるりのめん
 小十人の客十人あがら女房やそく惚す。といふと妄言といふありあふ
 能さねバ本で能さるか。おりの流いのあまバ丁を。身とも家とも忘る
 るればとて傾城も。欺詐はつくりのあへあは偽の中の中も真あり。まの
 中ふ偽あり。陰陽といひ虚実といひ特煉といひ。口管といひ。陰陽虚実を
 自然の道理水ハ火と滅とのあれど水氣小よつて火氣と倍と雷電を

見とこれとをれ又火とて水氣と引く井戸堀りのするごとく。あれば実の由
 枝葉と附頗虚説を加味と。世俗の耳は入る故。故の口碑も残るあり。
 孫子兵の詭道といひ詭詐ハ欺也。又連也。敵と戦ひ城と攻むとも
 欺詐と上手つくりのハ必勝といふこと。僕孔明南朝の權はつと成
 大臣とて物ありげよ泰とも。その軍をさすとすけ。さる詭の計。詭は心
 欺はといふりの。されバ又物の本。史傳記録は虚文ま。左氏傳國語
 史記漢書比按て是とハ異同あり。舊事紀ハ古代の塞の。今写本あせり。
 日本後紀ハ書名の詭。小説野衆に至てハいざとをれ。虚説はうきと。
 ころの古といふ海潜記山海経の妄誕ら。英雄人と欺はハ呂不韋が
 虚説ハ呂覽の王。趙曄が偽ハ呉越春秋と。通ハ秦漢物。于宝淵
 明が搜神記段成式が酉陽雜俎。唐から虚説ハ流れと。いざとをれ。

假名物語竹取るなど万葉の歌ゆゑ虚儀をつたひろげ美福門院と縁

て玉藻前と鶴とつく源氏袂衣以下ハ傍ていふはぬうをつたの華とて

世の人称まじく虚儀でも昔の力のとハ詰めぬ今つくうをといふといふ

事ゆゑをいひね見く古書の歴史といひしり唐山堯の時日輪をの致

十ヲ出さうその熱さ大暑中ハ煎餅を焼く頼ひよあふ凡物焦ま

焼くハ帝堯弓は箭うち刺ひ片端から射おとすべし九ツの日輪ハ忽地

墮て跡るハ威残るツの日輪の朝よ出て夕よ没るとハ死すのむらゐ大万八

夫人の弓勢ハ百歩の外よ及びじ天の高さ九万里と大約亦も推し

つゝ小堯ハ聖人るればとく九万里先の日輪と射て落されふ等ハ或ハ

罪が射とよりゆゑまやても勅定あはぬ加以日ハ火心か一把の薪と

燃し強弓の人のまを射とも頼くその火が射滅さるべし天の火ハ地の

火ふ似せごまを射んとす難し或ハ九ツの日輪ハ鳥の妖精真乃

日輪あてハは只徳とめてごまを滅せの墓日鳴絃とるめりといふ

ちとく大虚鏡ハ彼九ツの日が質物るハ萬物の焼焦されど叢で燃すと

鬼火ハ草木少許も焼ざるごとこの理よ由て推し熱といふも又虚文

とを真の火よさるといふ火と水と其の性も火と射て獲て滅とて

あふ又水を射て落さぬ秋葉の時は水逆流しく民その害を蒙りたる帝堯

のどて弓箭とめて水を退けぬといふ水ハ空よ射べかハ或ハ日ハ九ツ

聖王万物を憐れむ凡常よあふさればその箭ハ天よ及びぬども精誠とい

て九ツの日輪と滴しぬといふ夫聖人の精誠とりて九ツの日を滅とてあふ

洪水も又精誠とりて忽地退けぬといふその母原日と滅しぬといふ日ハ

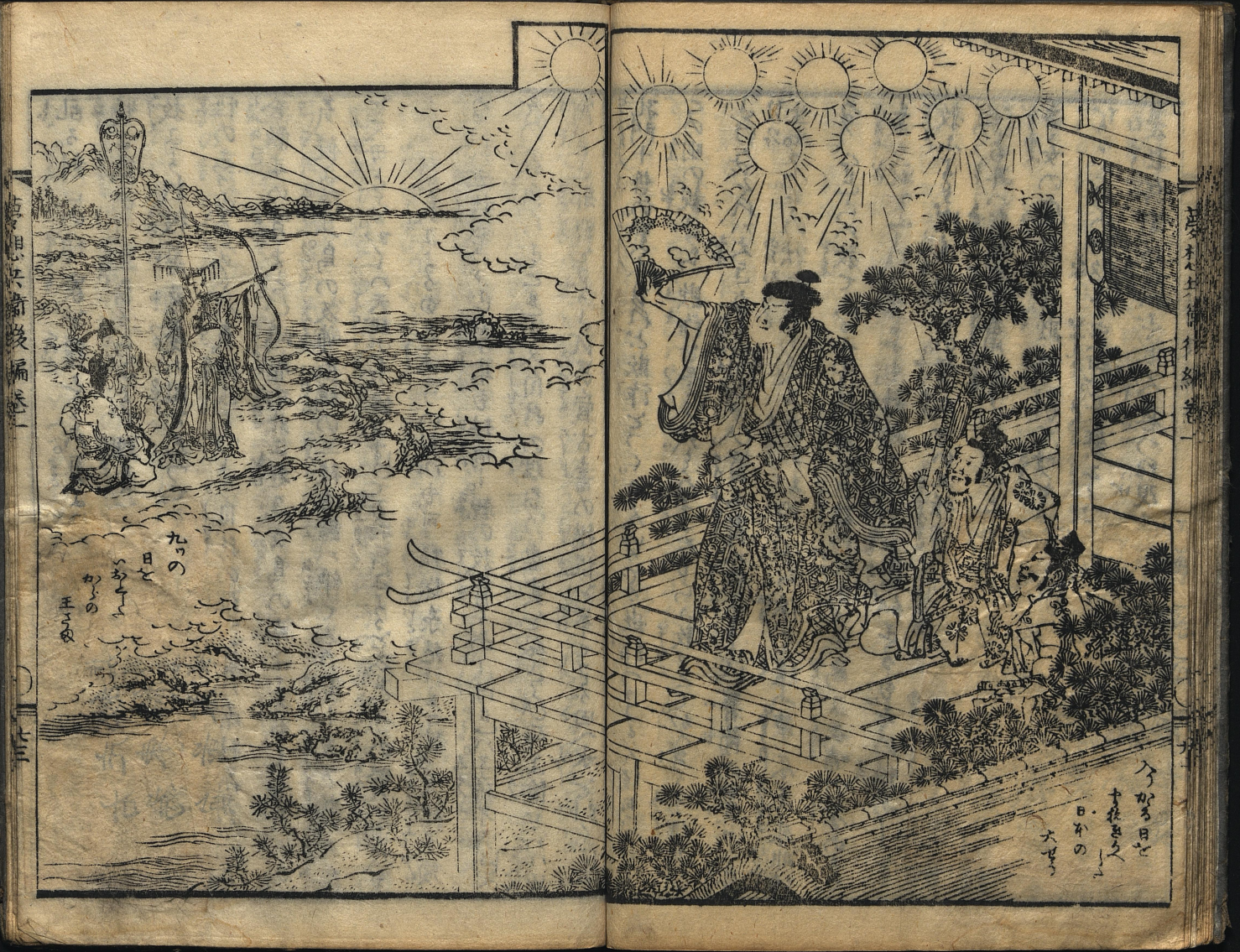
つゝ小を也又鳥の水と流す七年中て功と終む堯も鳥もする聖人ハ天ハ

遠く北の近一。まづ小遠き天火を滅せども、近き比水と退けゆざ。聖人の徳ゆ又おれちるぬ所あり。その詐偽推くまふふとの。これらわの事、小聖人乃徳の高きとらんとして、却実と失へる。多々博士が拙さ虚誇り或は周乃武王殷紂と封んとて、孟津を渡りぬ。八風波猛吹荒きて、王般反覆らんとまろり。武王左手小舟、右手小舟、執右手小舟、黃鉞操て、目と瞑し、一は塵を余、今天下あり。誰よりか意を害ふべき。とよがりぬ。八忽地、風波収り志とりぬ。虚誇り夫、風天地の氣、風と天地の蹄令と。武王、聖人紂王、悪人、聖人まろり、残獨の紂王と封亡く、民の塗炭を救ひぬ。天をて悪人の紂を助け、聖人の王般とまづめんと、八まろり、やらん。まろり、武王、風と憎む。目と睜て罵りぬ。風の神、怒るべし。只一言、おや、このめ、れぬ。果さるも、まろり、ぬ。まろり、世の常言、小天と罵りて、唾くとも。

おびびりては、武王一身の力をとせて、呪を腫しぬ。おともの声、天すて、おとくべし。風雨よ、おとくべし。厄難人の賢不肖、おとくべし。文王、美里に囚ふ。孔子、陳蔡に種を絶ふ。おとくべし。罵て脱しぬ。おとくべし。啼く。児と叱まはれぬ。泣、蹠馬と鞭て、おとくべし。蹴る。相罵て好文。辞と安寧す。民と安んず。おとくべし。曲禮の遺擲る。おとくべし。武王の廣言、聖人おとくべし。その安諾ある。推てある。おとくべし。日本武王、夷僚と征伐しぬ。おとくべし。上、後、脚へ渡らんとて、既、おとくべし。脚、脚と中ぬ。おとくべし。暴風吹荒きて、おとくべし。危く見えぬ。おとくべし。戈と操、麾、執る。天と罵りぬ。おとくべし。夫、日本武王の猛き。武王は、遠く、おとくべし。小、この君の武威とて、風波をぬきぬ。おとくべし。原是、天災なれぬ。後、河の牧、おとくべし。小、おとくべし。夷どもが故せ、野火と、草薙の斂りて、拂ひ退る。おとくべし。人、作の野火、おとくべし。おとくべし。聖王、良將とらん。おとくべし。武威りて、天災、おとくべし。或、おとくべし。

葉師堂と建之。成神と安置。その灵験といひおきて。隣と同族中
 あり。成と世の人。よびおぼへざる。詐術と諱く。虚文と志す。其時
 近属
 建之。成神の守護。よらて必死と脱る。その八幡宮。正は源家
 累代の氏神なる。実朝社系より。夜八幡大神。見敷く。去る。ある。六
 情。は。の。傳。文。を。教。へ。立。る。千。百。言。中。一。に。夫。實。強。は。増。云。あり。
 史。傳。は。飾。文。の。多。く。童。稚。ある。ね。は。その。時。は。佞。媚。を。假。記者。稱。する。よ。
 悉く。虚。文。を。咎。め。ば。書。る。は。あ。ら。ま。る。と。す。且。聖。人。中。載。言。あり。二三
 子。偃。之。言。は。是。也。前。の。言。の。戲。之。耳。と。孔子。の。作。ら。ま。る。区。又。この。聖
 人。病。め。は。家。臣。ひ。ち。り。も。あ。ら。ざ。れ。ば。子。路。氣。の。毒。み。かり。ひ。つ。門。人
 と。て。家。臣。と。く。是。は。病。ひ。の。間。ある。と。た。よ。久。の。り。の。ト。や。鳴。乎。由
 詐。と。稱。し。下。す。これ。は。家。臣。ある。は。れ。の。と。と。作。せ。れ。と。さ。る。べ。子。路。ハ

孔明十哲の賢人あれど欺詐をつく。凡人のては欺詐つゝ。人頃日。けし
 この。圃。の。親。ら。欺。詐。を。そ。と。成。る。子。を。も。ら。ふ。教。と。て。ん。身。が。不。理。屈。の。い
 け。を。を。れ。た。大。子。を。子。簡。ら。ひ。賢。ふ。育。へ。教。よ。く。以。暮。積。の。蔓。は。春
 生。出。る。よ。の。秋。大。風。あ。る。へ。と。年。の。か。の。づ。ら。低。く。草。木。え。え。非。情
 あり。直。ら。の。教。て。あ。る。小。の。次。鳩。小。三。枝。の。札。ある。も。鳥。は。及。哺。の。孝。ある。も。
 象。が。親。と。す。ひ。よ。か。も。野。鴉。が。人。の。口。を。似。ま。る。も。その。性。あ。一。と
 教。ふ。ら。は。次。子。習。せ。の。学。問。を。の。五。徳。習。制。絶。せ。と。朝。夕。晩。を。息。勢
 張。も。耳。の。竊。語。大。不。器。用。忘。る。と。の。と。卑。く。お。不。え。ろ。ぬ。か。世。間。の。童。男
 孝。女。の。庸。る。よ。欺。詐。つ。て。せ。さ。う。と。て。その。子。も。又。欺。詐。つ。た。よ。
 ば。と。と。人。の。枚。子。定。規。甚。麼。そ。う。の。あ。る。ま。ん。と。罵。つ。け。ら。ま。さ。と
 愛。む。兵。衛。ハ。さ。の。ど。由。大。息。つ。た。現。は。紫。ハ。株。と。奪。ハ。鄭。声。ハ。雅。也。



古今和歌集卷之九

七三

九の
日と
かしの
王の

今かき月と
昔はさくら
日本の
大世

古今和歌集卷之九

七三

乱る。利口の邦家と覆るとの真は、辺のるるるべし。性、善みく
 情、慾あり、生るからより、理をさる。りの、聖人のを。凡夫、心て
 教、よられ、彼、暮、蒺、蔓、の、風、と、ま、つ、て、その、年、低、く、這、ふ、か、ら、れ、の、暮、蒺、の
 性、の、ま、つ、と、る、あ、つ、べ、気、候、よ、つ、つ、自、然、の、理、之、必、然、か、南、枝、花、は、開、き、
 合、歡、木、の、槽、ま、ま、ひ、鳩、雁、の、北、ま、赴、き、玄、鳥、の、南、ま、ま、る、ゆ、と、み、是、天、の
 氣、候、よ、隨、つ、鳥、の、及、哺、も、鳩、の、三、枝、も、餘、ハ、律、て、ま、り、易、し、夫、万、物、ハ、天、地
 と、又、母、と、ま、ま、か、く、天、地、の、氣、候、ま、ま、ま、つ、て、万、物、は、よ、と、ま、ま、子、の、賢、不、肖、も
 と、ま、ま、父、の、教、ま、ま、ま、つ、ゆ、え、孟、子、の、母、也、也、可、惜、楛、系、絶、ま、ま、こ、ろ、天、地、不、順
 の、れ、ハ、五、穀、登、つ、ま、草、木、も、枯、槁、親、の、教、育、か、あ、け、ま、ま、子、孫、不、孝、
 その、家、與、ら、ま、ま、ま、も、又、自、然、の、理、あり、虚、実、と、極、ま、ま、ま、ま、論、せ、ら、ま、ま、
 寓、言、と、邪、說、と、ま、ま、ま、ま、古、書、の、措、悞、と、奉、て、ま、ま、田、へ、水、と、引、く、は、
 石、り、て、玉、と、偽、り、鹿、を、作、て、馬、と、り、ま、ま、也、識、者、は、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 為、し、ま、ま、子、の、父、の、な、ま、陰、と、ま、ま、ま、不、欺、詐、も、似、て、直、ま、ま、ま、ま、
 兄、才、牆、は、聞、と、も、外、の、侮、と、禦、か、ま、ま、ま、非、を、ま、ま、ま、ま、骨、肉、乃
 信、その、中、ま、ま、孔子、の、箴、言、ハ、門、子、を、勸、ま、ま、為、の、信、ま、ま、子、孫、を、作、り、ま、
 作、と、お、り、ま、ま、信、の、篤、ま、ま、ま、ま、ま、下、り、老、子、の、虚、無、仏、氏、の、方、便、
 子、の、寓、言、孫、子、の、武、略、停、子、髡、か、滑、稽、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 時、ひ、ま、ま、世、は、益、あり、夫、兵、ハ、凶、器、あり、幾、ハ、を、務、と、良、將、と、ま、ま、孫、子、
 魂、の、針、ハ、人、を、傷、ら、ま、ま、信、あり、老、子、の、説、ハ、ま、ま、ま、ま、ま、
 る、れ、ハ、覺、か、ま、ま、り、ま、ま、ま、天、憲、の、時、を、辨、ま、ま、ま、
 寓、言、変、化、は、意、也、譬、喻、その、實、を、失、ま、ま、ま、ま、ま、
 髡、が、滑、稽、ハ、ひ、ま、ま、ま、ま、の、解、易、ハ、意、也、

石りて玉と偽り鹿を作て馬とりま也。識者ハこれを察せま又其の
 為しま子父のなま陰とま不欺詐も似て直まま
 兄才牆は聞とも外の侮と禦かま非をま骨肉乃
 信その中ま孔子の箴言ハ門子を勸ま為の信ま子孫を作りと
 作とおりま信の篤ま下り老子の虚無仏氏の方便
 子の寓言孫子の武略停子髡か滑稽まま
 時ひま世は益あり夫兵ハ凶器あり幾ハを務と良將とま孫子
 魂の針ハ人を傷らま信あり老子の説ハま
 るれハ覺かまりま天憲の時を辨ま
 寓言変化ハ意也譬喻その實を失まま
 髡が滑稽ハひまの解易ハ意也

五月の頃童子の青梅とむらりて。その母禁人とてふゆゆ捨て
見え不圖とて途小を。めが隣家のひき息子常と青梅と啼
う。俄小腹痛しくひきくるぬ。十八日の速夜るれ八墓をりあし
生るふ。うふも又青梅と普む童のあけむとをれとへるふりふと
童子且く顔とらちりてひきふりて。梅と捨たるのハ掃じ。こまを
仏の方便とも。又淳干魁が滑稽書とも。孫子が武略注周が寓言とありんぞ
か。あつ小梅と捨さると。子とよふ。その梅俺よ。其の代は錢ありと
いひて騙しと取のりて。錢と易は不利とひき導く。れハその子よ書あり。
又錢とあつせねバ欺くを教ふる。そ亦世の書籍ともふるれと。こ
トハ傳書の増言さむるハ勸懲の爲あて近て。さると。めと博く
とる。しと。仁の端とハ聖ものんじ。銭漁とてとも塵とるさ。と。比獄変

相の説るの。現あまは。とてなほ。疑へば成仏を。まると。小この國入
ハ胸中一点の信ある。人を欺き身利と謀り。謗言邪説を。とて
口才浮薄奸智は長古書の疑しれと穿鑿し。凡慮の決断は任さる
るんと耳塞でも痛痛し。いふ人の愚ハ直する。今の長ハ詐るのぞ抜い
へあまなる馬鹿とと欺詐と尽みのへ。されハ古ふも偽りの。れ
世り。神々月誰が信りあまそあけん。嘘とと流破れハ。事
居大高くる。おん身が近づいたの聖人の隠まらと索め。怪さとわひ。
後世も速るもあらん。それらハ世とひそと。述て他を信しハ古を
好むる。いふ。とと忘めて。宛言の方便の。勸音の懲悪の。との
勝子は急いふ。とと。れハ。欺詐ある。れ聖人よあまふれハ。彼
汝が快説とつけ。れハ。欺詐をつく。お。不足。是。是。是。

古今事類通考 卷之九 後 節 後 編 一
一

畢竟虚名の名実の高低をばけりて生老実よたゝんでても情も
 名なのよりより必利りがるり利の為ふ名を好め虚名ともいへ名実とも
 以り品了をくまいぬりのみもよ是は婿から妹からとけていへきぬ鼻の
 先さといふと多くはよので得むかくは希二郎そのひじ致蔭よありとは
 野矢炮とらなまりて屁のやうと卑下せり人を甚しく珍重しく
 重月希二郎致中みく屁を放らうと世上の風声をよりて名が高く
 なる好む亦は名利と攫て多く生活するるといふ又おんえが旅宿とする
 甚野万八日りたたぬ万八傳は我らとて名の外は入もあらない名のより
 更利といふ四てるけきは水も溜らせ業が高くと利も溜らせ後と名と
 り吸膏某で吸とまきはあけの吹水見るやう高いといふ利も
 多く名利といふといふの片輪車一輛かじ虚実入車の兩輪

のより生老実のより高下をばけりて生老実よたゝんでも情も
 羅貫のいれは衆生あり三間張あれは水館もあり柳八翠花紅の
 いろく夢吹入虫もあの好き三寸不乱の舌をありて片意地を張り
 通一千万言を費してもこの國の人は説てはさらにあつとものここみはこ
 としらまらし未だとうがあつとうをありたいの人免達といふあまりを
 昔の人も稼ぎをある九夷は居らふのと述懐は夢えといふあまりをあるとが
 瘦頰で説はればとて啖ついらうといふ齒取つく國では凡生といふ
 りの声あればかのうらば発を梅は蜜蚕屋の暇暮も和歌を詠むとい
 喜人の放詐公治長よあらば鳥獸の啼声何といふやりやりやり
 ど日外下の日待の夜檀那さんといふ藝者様下司の話説の尻へかかる
 も虚説でるすまば落が来る春の花のめでといふ造らる花を賞讃す

本八丈のうす小かくは上州八丈が口かき辛く、船の昆布巻上人、鯨の
 昆布巻かき多く賣まゝ、鯨體の蒲焼屋の隣ふも、海鯨の糞賣、
 店あり、太夫も牙揚りする日あれば、夜渡のむろく、ゆる夜ハハ、真と
 鵞の看板あり、似て非なる物と欲ぶも、さかく銭との相違るべし、
 晦日は月ハ出るとも、さうらで真と間尺ハあはむ、むじ唐山楚の國ハ直躬
 とのよりのあり、その又羊を竊へ、直躬こそと王は錫ハ荆王ガてその
 又を執て誅えんとするそ死よ、又ハ代アと死んと清ハて將ハ首加まんとする
 と死よ、吏ハ告ていハカ、又ガ羊を竊るを、明白ハ錫ハハ是よ、信ハ
 也、又ハ代アと死んと清ハ亦孝約ハゆる、信ハて孝ハあり、
 誅ハありや、といハハ、直躬王、信ハて終ハ直躬と救ハ、魚圓の
 先聖こそを、異ハ直躬ハ強テ信ハ、
 かのが名を取らり、のろりと、習うら、頻めら、とぞ、かく
 てハ信ハ、死よ、或ハ尾生ガ女子ハ契ア、橋梁乃
 下ハ俟てござれ、居よ、といハ、と妻易、や、どもく、的ハ末、
 とも、待ね、夕ハ、満て、ぬ、も、や、退て、情、り、志、や、放、詐
 つき、み、げ、れ、ま、ん、と、橋、梁、よ、ま、か、と、つ、れ、ど、う、く、水、か、れ、は、り、つ、て
 死、ハ、馬、麻、正、直、と、く、笑、ハ、や、或、ハ、魯、の、社、么、ガ、母、の、姜、氏、と
 恨、ハ、一、あり、黄、泉、あり、て、見、え、ト、と、誓、ハ、一、ハ、狐、後、悔、ハ、願、若
 叔、ガ、教、ハ、ま、り、て、地、を、堀、ト、せ、く、穴、の、中、あ、り、親、子、ふ、び、對、面、あ、り
 も、舌、を、二、枚、つ、つ、ト、と、あ、ハ、一、肩、を、と、から、穴、の、り、を、致、ハ、
 諸、の、物、毎、ハ、臨、機、應、變、信、ハ、り、ハ、よ、み、せ、よ、あ、ま、り、信、ハ、
 か、入、ると、警、家、の、一、心、記、ま、り、て、ま、な、ま、り、後、悔、ハ、一、ト、免

かのが名を取らり、のろりと、習うら、頻めら、とぞ、かく
 てハ信ハ、死よ、或ハ尾生ガ女子ハ契ア、橋梁乃
 下ハ俟てござれ、居よ、といハ、と妻易、や、どもく、的ハ末、
 とも、待ね、夕ハ、満て、ぬ、も、や、退て、情、り、志、や、放、詐
 つき、み、げ、れ、ま、ん、と、橋、梁、よ、ま、か、と、つ、れ、ど、う、く、水、か、れ、は、り、つ、て
 死、ハ、馬、麻、正、直、と、く、笑、ハ、や、或、ハ、魯、の、社、么、ガ、母、の、姜、氏、と
 恨、ハ、一、あり、黄、泉、あり、て、見、え、ト、と、誓、ハ、一、ハ、狐、後、悔、ハ、願、若
 叔、ガ、教、ハ、ま、り、て、地、を、堀、ト、せ、く、穴、の、中、あ、り、親、子、ふ、び、對、面、あ、り
 も、舌、を、二、枚、つ、つ、ト、と、あ、ハ、一、肩、を、と、から、穴、の、り、を、致、ハ、
 諸、の、物、毎、ハ、臨、機、應、變、信、ハ、り、ハ、よ、み、せ、よ、あ、ま、り、信、ハ、
 か、入、ると、警、家、の、一、心、記、ま、り、て、ま、な、ま、り、後、悔、ハ、一、ト、免

信く信くら親いなと中ふ人と恨るるゆあり。されば
 歌も偽りのあつ世あり。神を月貧乏神ハ身ともつるま
 ぞ。今から欺詐の夥計いりて世の舊古と劔とやと。さて
 もつ返答よ愛兵衛ハまじく果也。叔孫武叔よ仲尼を
 毀了。壁人藏倉孟子と識る。いさよか我馬麻りのよ。係りの
 へたさ多損あり。され今ひさの直さよ因ん。衆の枉まるの
 と。醒えとそれと正直りのと馬麻よつける茶利ハ比丘尼
 の鬘神索んら。宿うえせん。とありひら。その外面へ
 走り生天を瞻てさ。扱けバ。紙老時。忽ちとまひさ。愛兵
 兵衛をうれをせ。ま。空中へひかめた登る。何圃とま
 る。飛て行く。

○總評

評小云邪説の人を傷る。その害帛狼より甚し。まればも。
 君子を義よさ。我。ゆゑは害り。小人を利りさ。我。
 ゆゑは害あり。人世才。遅れをえま。これを稱し。とく
 経済家ぞ。亦彼浮誇の人と見え。こ。と稱して。嘉嘉
 とい。経済世才と混ぶ。べ。後。嘉嘉と稱。哲ん
 りの。老莊方外の徒と存く。い。これ夫世才。長
 たふとん我。経邦。世の才。い。これ彼浮誇の人
 とえる。小。嘉嘉。出塵の。是。異あり。理。ま。と。容。易
 から。人。と。知。る。と。難。く。も。あ。る。作。世。よ。莊。子。の。一。書。を。流
 て。その。荒唐。と。う。ろ。こ。べ。り。の。へ。く。莊。子。を。知。る。の。あ。ら。

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

夢窓去來後集卷一

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

ありし。庄子の所謂蘇茂の人世より入る落刀人夫あり。

夢想兵衛胡蝶物語後編卷之一

